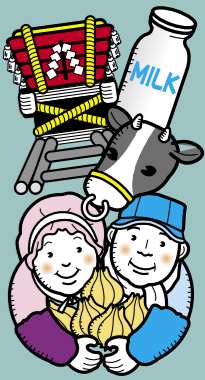


まちかどピックス

地域の催しや明るい話題などが
「さいましたら、気軽に広報係
までご連絡ください。」
☎43・5003(情報課)



音楽で地元の商店街を活性化



▲地元の中学生バンドによる生演奏など、商店街横の三原センターパークで行われた「納涼音楽祭」

商店街で「納涼音楽祭」

三原中央商店街(市)では、毎年7月の「二」の付く日に「納涼夜市」が行われます。今年も、誰もが楽しめる音楽で商店街の活性化につなげようと7月21日に「納涼音楽祭」が開かれました。三原中学校吹奏楽部の演奏や和太鼓、有志バンドのライブなど、さまざまなジャンルで世代を越えた楽しい音楽が披露されて盛り上がりを見せました。

合鴨の成長を見守ります

陸の港西淡で7月18日、合鴨の雛13羽が池に放たれました。これは同施設の清掃などの管理を行っている志知鉦の老人クラブ寿会から地域の子どもも同施設の利用者が憩いの場として楽しんでもらえるようにと実施されました。この日は地元小学校児童と幼稚園児40人が参加し、子どもたちの手によって1羽ずつ池に放たれました。子どもたち



▲合鴨のヒナを池に放す子どもたち

陸の港西淡

ちは今後写生に訪れたり合鴨の成長を見守る予定です。

市の新たな特産品を目指して



▲「もうちょっとで良太郎西瓜」に認定された西瓜を持つ杉さん(左)と中田市長

南あわじ良太郎西瓜収穫祭

歌手の杉良太郎さんが昔ながらの西瓜を復活させ、新特産品を作る取り組みで、昔ながらの西瓜の再現となった品種は「南あわじ良太郎西瓜」と認定されます。市内のほ場を中田市長と杉さんが訪れ、西瓜を収穫。その後、市内22の農家で栽培された12品種を杉さんが食べて、再現できているかを判定しました。また、収穫された西瓜450食分が来園者に振る舞われました。

田植え体験で農業の魅力を感じてもらった

田園風景の広がる淡路島に居ながら「田植えの経験ありますか?」そんな些細な会話から実際にやってみようと淡路島ロングライド150にも参加しているサイクリング愛好グループが、メンバーの奥さんの実家、道上八千子さん(八木)の田で6月24日、田植え体験をしました。島内外から集まった大人10人が、悪戦苦闘しながらも楽しく、手植えと田植え機で約10アール

楽しく農業を体験できる機会を提供

の水田に苗を植えました。現在一人で農業を営んでいる道上さんは「植えられた田んぼの苗筋は曲がっていたりもするけれど、大勢でにぎやかに作業される姿が微笑ましく、農業も見方や考え方ややり方次第で魅力や、やり甲斐を持つてもらえるのではないかと感じました。農業を楽しみながら、肩ひじ張らず、やってみようという人たちの思いと一緒に作業できたこ



▲田植え体験するサイクリング愛好グループ「Teamぐるぐる」のメンバー、秋には稲刈り体験の企画もあがっています

とが本当にうれしかった」と話してくれました。

ラモス瑠偉さんのサッカー教室が行われました



▲ラモスさんと子どもたちは試合形式での練習も行いました

サンライズ淡路

サンライズ淡路で7月29日、サッカー元日本代表のラモス瑠偉さんによるサッカー教室が行われ、島内のサッカーチームに所属する小学生約60人が参加しました。

すると、子どもたちから歓声が上がりました。

教室では、リフティングやドリブルの練習が行われ、ラモスさんが肩や背中などでリフティングを

諭鶴羽神社に展望台が完成

展望台が完成した諭鶴羽神社で7月14日、渡り初め式が行われました。これは今年が古事記編纂1300年にあたるのにあわせて造られ、展望台からは沼島や紀伊水道などが望めます。古事記に出てくる国生み神話のイザナギとイザナミの2神が天から島々を創る足場とした「天の浮橋」にちなみ、同展望台は「天の浮橋選擇所」と名付けられました。諭鶴羽



▲完成した展望台「天の浮橋選擇所」

古事記編纂1300年記念

神社の木下豊総代は「沼島や和歌山市など一望できるので、ぜひ景色を楽しみに来てほしい」と話していました。



▲振る舞われた西瓜を食べる来場者

残念ながら今回「南あわじ良太郎西瓜」に認定された品種は出ませんでした。2品種が「もうちょっとで良太郎西瓜」に認定。21日には農家が丹精込めて育てた同事業の西瓜約170個が市内の保育園・幼稚園・特別養護老人ホームなど28施設にプレゼントされました。



▲懐かしみながら「あんまき」を作るメンバーたち

沼島「あんまき」復活プロジェクト

沼島の活性化に向けて

観光ボランティアガイド「ぬぼこの会」のメンバーが中心となり沼島総合センターで7月28日、「あんまき」復活プロジェクトがスタートしました。これは沼島の人たちが一体となって沼島を再生させる事業の一環として行われたもので、数年前に途絶えた「あんまき」を復活させ、将来的には沼島を訪れた人が食べられるおまんじゅうになればと考えています。メンバーたちは「もうちょっと焼き色ついてたな」、「こんな味だったな」と昔を思い出しながら、新たな挑戦に期待を膨らませていました。



▲手作りの団扇を完成させて喜びの子どもたち

子どもたちが手作りの団扇で節電対策

児童館

この夏、福良の児童館では、書き方クラブや書道クラブに通う市内の小学1年生から6年生の子どもたち約60人が、手作りの団扇をつくって節電対策に取り組みました。先生から手習いを受けたあと、自分たちが筆で書いた「祭、氷、花、光、涼」の文字を貼り付け、思い思いの飾り付けをしてオリジナルの団扇を完成させました。飛田館長から「家族の人にも見せて、家の人といっしょに節電に取り組んでください」と伝えられ、子どもたちも大喜びで「上手にできた!」と笑顔でした。